

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

流行性耳下腺炎はムンプスウイルスによるウイルス感染症です。

MMR ワクチンが使用された 1989 年から 1993 年を除いて、日本では 3～4 年周期で患者さんの増加が報告されています。MMR ワクチンは麻疹(はしか)・流行性耳下腺炎・風疹の 3 種混合ワクチンですが、副作用として約 1000 人に 1 人で無菌性髄膜炎を起こす事が分かり、現在は使用されていません。

1. 感染経路

接触感染または飛沫感染により感染します。

2. 症状

感染後 2～3 週間の潜伏期の後に、唾液腺の腫脹(腫れ)・圧痛、発熱で発症します。基本的には軽症の経過を取り、1～2 週間で軽快します。唾液腺の腫脹は片側または両側の耳下腺が殆どで、その容貌から「おたふくかぜ」の別名が知られています。顎下腺や舌下腺が腫脹する事もあります。

但し、感染者の約 3 割は無症状(不顕性感染)で経過します。

3. 合併症

(1)無菌性髄膜炎：軽症の経過を取る事が多いのですが、発症者の約 10%に起こると考えられています。

(2)睾丸炎：思春期以降の男性の 20～30%に起こります。

(3)卵巣炎：思春期以降の女性の約 7%に起こります。

(4)難聴：20,000 例に 1 例と稀ですが、不可逆性の障害が残ります。

(5)睪炎：稀ですが重篤な経過を取る事があります。

4. 治療

対症療法が主体で、安静・解熱鎮痛剤・脱水に対する輸液などです。

5. 予防

任意の予防接種としてワクチンがあります。ワクチンはムンプスウイルスを弱毒化した生ワクチンです。副反応としては、接種者の数%で接種 2～3 週間後に一過性の耳下腺腫脹・発熱がみられます。また 1,000～2,000 人に 1 人で無菌性髄膜炎の報告があります(自然に罹患した場合に比べれば低頻度です)。

御意見・御質問などは石巻保健所健康対策班までお願いします。 電話：0225-95-1430 FAX：0225-94-7104

もっと詳しく知りたい場合は、保健環境センターHP(<http://www.pref.miyagi.jp/hokans/>)を参照してください。